

協議会ニュース

No. **165**

2019. 12



Contents

02	指導員講習会の報告	尾張支部	内海 勇夫
03	新指導員対象自然観察会 (10/13)	西三河支部	中川 秀彦
04	あいちの自然観察会 (8/18)	知多支部	榊原 靖
05	アライダシ研修会 (7/06)	尾張支部	山田 博一
06	蛇峠山研修観察会 (9/29)	名古屋支部	大熊 啄己
07	私の活動紹介	尾張支部	柴田 和則
08	新指導員紹介	事務局	
09	新指導員紹介 理事会報告 (38/12)	事務局	
10	行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記	事務局	

今号の表紙

モリアオガエル 石原 則義 (名古屋支部)
生き物のアップの写真大募集!

指導員講習会の報告

尾張支部 内海 勇夫

日時：2019年8月31日・9月1日

場所：美浜少年自然の家

自分は、1980年県民の森で愛知県の第1回自然観察指導員講習会に参加したメンバーです。この時は、この会がどんなものか分からず、とりあえず仕事(理科の教員)をする中で、自然に接する方法など何か学ぶことがあると思い参加しました。また、当時はこうした講習会にも出張で行くことができ、これも参加する一つの要因でした。しかし、実際参加してみてびっくりです。最後の内容が、自分で自然観察会の企画をしよう…学校で教えることは、指導書に書いてあることばかり、最初のとりかかりから違うわけで…できるのかなあ…。

ところが、今年の受講生はしっかりしている。それぞれ自分のテーマを見つけて、やっている。そんな様子を見て、いい仲間たちができるといいなあ…と思っていました。最初の段階で21名の方が、協議会に参加していただけたとのこと。でも、もう少し多いといいかなあと思いつつ、(参加者の半分ぐらいなので)愛知県在住の方には、その後各支部から、支部通信などを送るようなことができればいいのかなあと思っています。



講師の観察会準備

さて、協議会は1981年に発足。協議会ニュースの創刊号が82年に発行、これと同時に知多・奥三河・西三河・東三河・名古屋西部・名古屋東部・尾張の支部活動が始まりました。

今回の講習会は、名古屋支部や知多支部の方々を中心となって、企画・運営していただきました。ポツンと入った尾張支部の自分。尾張支部の支部長でもなく協議会の会合にも行っていない身で、分からないことばかりでしたが、何とか2日間参加することができました。尾張支部で、もっと若いメンバーの方が、最近の講習会の様子もわかっていて、力になれるのじゃないかなあと思いました。最近の尾張支部が、どんな活動をしているかもよくわからず、支部長から頼むわ——と言われて参加するに至った次第……。



朝 一番のカラスウリ

協議会ニュース 創刊号 故大竹勝氏の言葉に「…会員の意向を反映して内容を深め、各支部の活動や、全体の動きを把握していただけるよう努力し、この機関誌を通じて会員相互の連携を強めながら、あいちの自然保護教育の推進を図りたい…」先生の言葉のように、これからも各支部、協議会が進んでいければなあと思います。

日時：2019年10月13日（日）10:00

場所：名古屋市緑区大高緑地

内容：虫の仕業とその犯人

講師：山田千宏 参加者：11名

前日からの台風の影響を少し感じながら、新指導員研修会を実施しました。「こんな切り口での見方があるよ」「一步入ると、不思議があるよ」そんな観点で、具体的に植物や虫の観察です。

＜蝶道＞「この場所でチョウは、何頭、確認できますか？「ヤマトシジミなど、4種がいますね。チョウの通って行く道「蝶道」で待ち伏せすれば、ちょっと我慢すれば能率よく観察ができます。」【**当たり前のもの、当たり前と思わないこと、大切です**】

＜クズの葉＞「虫の食痕が見られます。どんな種類の食痕が、ありますか？」「成虫のものは、穴があいて抜けています。幼虫はこんな風にして食べ痕を残しています。食べた後の様子から、虫たちの様子を探ります。食べた痕（ふち）が、茶色であれば古いし、緑色のままなら比較的新しい食痕です。食痕から、いろんな情報を得ることができます。」

「クズの葉じゃんけん遊びです」「1枚の葉はどれ？」

「なぜ、単葉や複葉があるのか？」「クズ クズの葉にどんな食痕？の葉に来る虫、どんな虫？」「いろんな不思議・疑問が生まれます」【**いつもとちょっと違うことに、気づくことが重要です**】

＜ツツジの葉＞「食べられていない葉が多いです。なぜでしょうか？」来る虫が少ない。葉に毒がある。毛があって防御している。「葉の成長時期が関係します。新しい

葉は食べられていません。ハバチの幼虫は、葉を食べ、秋には、土の中で繭になって越冬します」

＜クワの葉・実＞

カミキリムシの仲間、クモの仲間 サツマノミダマシ、ハゴロモ、菌を食べるキイロテントウ…。虫の宝庫です。隣り合う2本のクワの実、食べ比べも楽しいです。

＜その他＞「イチョウ、メタセコイアに、なぜ虫がいないのか？」「大カエデ、意外と虫がいません。なぜ？」「虫がつきやすい木、つき難い木、つかない木で観察会ができます。この木で虫跡を見つけてみましょう」「虫食いの葉と病気の葉は、どうやって区別できるのか？」「シラカシの実、今落下している実を示して、なぜ落ちたのか？（カシノ木に多いゾウムシの仲間の仕業）」…「本日見たチョウ、どんな仲間分けができますか？（越冬の仕方）」

最後は、「虫の居所」「こんなことに注意」等のまとめ、「折り紙でカエデの種を作って飛ばし体験」を楽しみました。

【**常に知らないんだ意識が大事です**】

メッセージもあり 折り紙カエデを飛ばしました。参加者全員が満足できた2時間の新指導員対象研修会となりました。



若い葉に食痕あるのか？



虫の宝庫：クワの葉



クズの葉にどんな食痕？



折り紙カエデを飛ばす

あいちの自然観察会

知多支部 榊原 靖

観察会名：海辺のヤドカリたち

日 時：8月18日（日）10：30～

場 所：蒲池海岸

参加者：一般9名（大人4、子ども5）

指導員11名

前日からの猛暑で、集合時刻の頃には既に汗がにじむほどでした。ケーブルテレビ局CCNCのインタビューと収録取材があり、観察会の目的や活動実績などをお伝えしました。

一般参加者は常滑市内、武豊町、刈谷市、名古屋市緑区からの4家族9名。各家族に「海辺のいきもの」ラミネート版を配布しました。開始に先立ち「危険な生きもの」と「熱中症対策(飲料)」について念押しをし、海辺へ向かいしました。

干潮予定時刻は13時34分で、まだ海水位は高かったのですが、砂礫が露出した海岸でのヤドカリ、イソガニ探しは難なく始めることができました。ヤドカリ、イソガニは石や岩を大人が動かすだけで簡単に見つかるので、子ども達はすぐに夢中になって採集を始めました。

1時間ほどすると隠れていた突堤も露出して、本格的な採集が出来る様になりました。ハゼの仲間、エビの仲間、シタビラメ、ウシガエルのオタマジャクシまで捕まえました。暑い最中、時間もあっという間に過ぎましたので、皆を集め、採れたものをバットに仕分けして分かち合いなどして楽しさを共有しました。

子どもたち向けには1～3種のみに話題を絞り、その後は興味に任せた質問時間に充てるのが適切でした。

【観察した生き物】

◎海藻

海草＝アマモ

◎動物

ヤドカリ＝ユビナガホンヤドカリ

カニ＝イソガニの仲間

(ケフサイソガニ、ヒライソガニ)

エビ＝種名不明

…生まれたばかりの赤ちゃんエビ

フナムシ

ミズクラゲ

ミミズハゼ、アゴハゼ

シタビラメの赤ちゃん（2cm程）

イソコツブムシ

ウニの仲間＝ブンブクチャガマ

二枚貝＝オニアサリ（生）、バカガイ（生）

◎その他

貝殻＝アサリ、ウチムラサキ、マガキ、

カガミガイ、トリガイ、ツメタガイ、

サルボウ、ナミマガシワ、マテカイ、

アケガイ(アワスダレ)、イボニシ、

アカニシ、ツメタガイ、

コシダカガンガラ

変わり者＝ウシガエルの

オタマジャクシ（生）2匹

漂着物＝クルマミ、ヒシ、シジミ、

淡水の水草3、どんぐり（コナラ？）

台風10号の影響による木曽三川からの漂着物と思われます。

(記・森田、榊原一部改編)



何がいるかな？

アライダシ研修会

7月6日(土)

尾張支部

山田 博一

上矢作町のアライダシ自然観察教育林に行った。上矢作振興事務所で入山手続きをし、一人200円の協力金を払ってパンフレットをもらい入山した。駐車場から1.7kmほど歩いて入り口に達する。昼ご飯を食べているとモリアオガエルの卵塊を発見。今さっき幼生が落ちたように見えた。遊歩道を歩くと、足元には苔の大群落が出現する。さらに進むと見事な天然林の懷へ。



モミやツガ、サワラなどの針葉樹とブナやミズナラなどの広葉樹が混じり、手つかずの美しい森林景観を作り出している。そこは粘菌類の宝庫だった。サルのササの食べ跡と落としたばかりの大量の糞に驚く。帰りに開花した後ササが枯れてしまった絶景に遭遇。どこでもシカが木の皮をはいているのが目立つ。車を運転していてもシカによく会った。シカを何とかしないと日本の自然が大変なことになるのではないかと危惧する。セミの抜け殻もあった。帰って、自分の陰部に食い込むマダニを発見してショック！アルコールで麻痺させ、引っこ抜くのではなくネジ巻きのように回してなんとか自力で取った。後日、医者へ行ったら、熱が出たら来てほしいと言われた。

参加者：指導員（浅井、太田、木村、源田、永田、松尾、山口、山田）、一般2名

【植物】コアジサイ、タマアジサイ、ウバユリ、クサギ、フサザクラ、ダケカンバ、アカシデ、イヌシデ、クマシデ、ミズメ、ツガ、モミ、リョウブ、ツルシキミ、サワラ、ヒノキ、ハリギリ、カナクギノキ、エンコウカエデ、イタヤカエデ、ミズキ、カヤ、ウラジロヨウラク、アオハダ、アブラチャン、オオバヤシバシ、クルマムグラ、トチノキ、ハイゴケ、コシアブラ、コハウチワカエデ、ブナ、イヌブナ、ミズナラ、タンナサワフタギ、フモトスミレ、トウゲシバ、コミネカエデ、キハダ、ツルリンドウ、テバコモミジガサ、ケンポナシ、コハクウンボク、ハスノハイチゴ、コバノトネリコ、クリ、メタカラコウ、ヒナウチワカエデ、エゴノキ、アケボノソウ、ヒカゲノカズラ、オニルリソウ、ミゾソバ、ニガイチゴ、クサイチゴ、ツリフネソウ、ヤマホタルブクロ、キンミズヒキ、ミヤマガマズミ、オオバアサガラ、ムラサキシキブ、オオウラジロノキ、フジシダ、ホウノキ、サルナシ、イワガラミ、カワヤナギ、ツタウルシ、エビガライチゴ、ウリハダカエデ、ホウチャクソウ、キツリフネ、フタバアオイ、コクサギ、ウリノキ、クロモジ、クモキリソウ、テンナンショウ、ノブキ、ノリウツギ、オトギリソウ、ミヤマタニソバ、サワギク、フシグロセンノウ、クマイザサ、オシダ、スズタケ（開花枯死）

コケのリスト：ケチョウチンゴケ、スギゴケ、ツチホコリ、マメホコリ、ヒノキゴケ

【動物】ユウレイガガンボ、シカ、サル（糞多数）



尾張自然観察会ホームページに詳しい写真があります。 <http://owari-shizen.sakura.ne.jp/>

蛇峠山研修観察会

名古屋支部 大熊 琢己

日時：2019年9月29日（日）

場所：長野県下伊那郡阿智村

「蛇峠山」（標高 1664m）

昨夜までの予報がよい方に外れ好天に恵まれ、参加者 14 名は 4 台の車に分乗して本郷駅を出発しました。途中、国道 153 号線添いの道の駅で休憩し、車止めのある蛇峠山登山口の馬の背駐車場（標高 1220m）に 11 時頃到着。早速旅立ち間近のアサギマダラの出迎えを受けました。手始めに駐車場の隣にある馬の背展望台に上がり、矢作川源流の一つである、大川入山などの眺望を楽しんだ後に蛇峠山へ進行開始。

2 つのルートの内、急な歩行者専用遊歩道ではなく、緩やかな舗装道路を選択し、次々に現れる植物をじっくり観察しながら頂上展望台を目指しました。白い小花の集まったキク科の花が 2 種類、「葉がハート型ではないね」「葉が茎を抱いていないね」等の意見が飛び交い、ゴマナとシロヨメナ（ヤマシログク）と同定。次は大型の葉を持った、ツルウメモドキ？色づき始めた実も付けていました。「葉の裏に“畝”があるからこれはオニツルウメモドキ」と教えてもらい、ルーペで観て納得。いつもながら先輩指導員の博識に感謝。次の新顔は、一見ニガナ似の黄色い花。その場でスマホで調べた方から「ヤナギタンポポ」と教えてもらいました。またまた一つ賢くなった気分。更に、ウメバチソウ、マツムシソウ、リンドウ、ハンゴンソウ、ヤクシソウ等々この時期ならではの野草が次々現れ植物談義にも花が咲きます。このように普通 1 時間程のコースに倍近い時間が掛かり、13 時頃頂上展望台に到着、昼食を摂りました。展望台付近には高木がなく標高の割に遠望が利

き、北は信州のアルプス連山から南西の三河の山並みまで見渡すことが出来ました。

戦国時代に武田信玄がここに狼煙台を作り、三河の情報を甲斐まで伝える通信網を構築したとの説明板がありました。現在も、電話会社、放送局の中継基地やレーダー雨量計施設等が設置され、情報通信網の要の地として活用されていて、信玄の慧眼に改めて感心させられました。

13 時頃下山開始。帰路は途中立ち止まっていたの観察を控えたため 30 分ほどで馬の背駐車場に到着。麓の治部坂高原スキー場で現地解散。4 台がそれぞれに安全運転で名古屋に帰りました。

蛇峠山は恐ろしそうな名前とは裏腹に明るい山で、南信州の秋の樹木や野草をじっくり観察した楽しい研修会でした。



観察風景



中央アルプスを望む

私の活動紹介

尾張支部 柴田 和則

私は小牧市東部の「兒の森」でグループの仲間とともに、里山の整備や子供たちの自然体験などの活動に携わっています。

グループの活動日は、毎月第1・3日曜日で、内容は兒の森の整備、ジュニアセミナーや里山分校の開催、小牧市民まつりや環境フェアなどのイベントへの参加です。

兒の森の整備活動では、安全かつ快適に森を楽しんでいただけるよう散策路の草刈りをしています。

兒の森は、小牧市東部の天川山・本堂ヶ峰・西山を中心とした丘陵地で、愛知県が生活環境保全林事業として約17ヘクタールを整備し、グループがこれを引き継ぎ、平成18年4月に一般開放しました。その後小牧市や地域と連携して、安全かつ快適に兒の森の自然を楽しんで頂けるよう管理し、その魅力を伝えるとともに子供たちの里山の自然体験を支援することを目的に枯死木、風倒木の伐採除去を行います。台風などの被害が発生した場合には、平日でも緊急に作業を行い、散策路の安全を確保しています。

ジュニアセミナーでは市内の小中学生を公募し、年6回の講座を開催しています。講座は、ポイントラリー、カブトムシなどの昆虫採集、ロープ遊び、ノコギリで木を切る体験やシイタケの菌打ち体験など、兒の森でなければできないプログラムになっています。

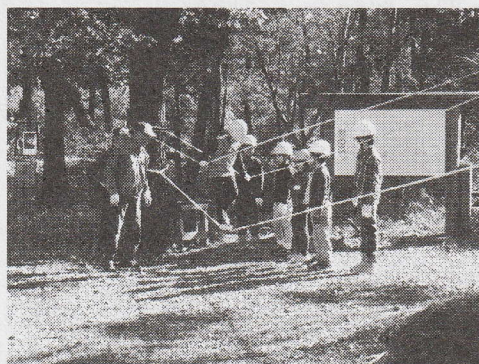
里山分校では家族で参加して頂き、山菜を天ぷらにして食べる「里山の春を食べよう」、夜の兒の森を歩く「里山の夜を歩こう」、シイタケの菌打ちをする「里山のキノコを栽培しよう」など、年4回の里山体験

を開催しています。

また、小牧市民まつりや環境フェアなどに参加し、ヒノキの丸太切り体験や葉っぱのラミネートづくりなどを通して、兒の森の魅力を伝える活動をしています。

グループには、チェーンソーで木を切ることが上手な人や、キノコ栽培の得意な人、植物・昆虫や鳥の好きな人など様々な人が在籍し、それぞれの得意な分野で活動を楽しんでいます。

散策路のコースはおよそ2時間、「キツツキの小道」から望む入鹿池は素晴らしい眺めです。晴れた日には山頂から名古屋市のお薦めのビューポイントのほか、山野草や鳥や小動物との出会いもあります。是非ご家族でお出かけください。



ジュニアセミナー（ロープ遊び）



台風被害の処理作業

新指導員紹介

2019年愛知県「美浜少年自然の家」で指導員講習会を受け、県協議会に入会された22名の方の自己紹介です。

- ・荒谷 典子（名古屋）：毎朝、愛犬を散歩させながら、一人観察会を楽しんでいます。
- ・井土 清司（名古屋）：猪高緑地（名古屋市）等で活動しています。宜しくお願いします。
- ・川合 芳子（名古屋）：尾張旭市に8年前から住んでいます。そのころから自然について知りたいと思い、観察会などに参加しています。今は長久手の湿地の整備の手伝い等をしています。
- ・川本 洋敬（名古屋）：自然が好きで、子どもと一緒に自然観察会や体験会に参加しています。自然や生きもののすばらしさを伝えられるようになりたいと思います。宜しくお願いします。
- ・楠 昂大（名古屋）：名古屋市名東区周辺で活動していききたいと思います。
- ・阪田 純二（西三河）：犬の散歩の途中に公園がありますが、その中の林に入った時に草木の名前、虫の事、季節の営み、何も分かりませんでした。せめて身の回りの自然を見て触って、感じて、確かめてみたいと思いました。今からの勉強ですが、楽しみに頑張りたいとおもいます。
- ・作本あゆみ（名古屋）：山が大好き！自然が大好き！で毎年夏にはアルプスの山々をテント泊縦走したり、最近では、庭の野草でお茶を作ったりして楽しんでいます。また、五感を磨き、フル回転させて観察会に参加する中で勉強させていただきたいと思っています。
- ・佐藤 文彦（尾張）：はじめまして、佐藤文彦といいます。これまではレクリエーションに関する資格をもち、レクリエーション中心に活動してきました。最近では、自然保護、環境教育などに興味を持ち、自然についても勉強中です。
- ・杉浦 公亮（東三河）：休日は、カメラを持って東三河のカエルを追いかけて写真を撮っています。シーズンはアズマヒキガエルの産卵が始まる3月初旬から、上陸して冬眠する10月～11月前半までです。ほぼ毎週カエル達に会いに出掛けて楽しい週末を過ごしています。
- ・鈴木 恵（名古屋）：高校で理科の先生をしておりましたが、脱サラして現在は家族で街の電気屋さんを営んでおります。動植物の知識が不十分です。いろいろ勉強していきたいと思っています。宜しくお願いします。
- ・鷺見 順子（名古屋）：名古屋市緑区滝ノ水緑地で雑木林の保全活動を行っています。
- ・高木 信雄（名古屋）：まずは足を一歩踏み出し、自然にふれあい、会の皆様と交流を重ねたいと思っています。宜しくお願いします。
- ・田京 弘一（名古屋）：年金生活者にとって本部に支払う5000円は高すぎる。私たちはボランティア（無料）で地域活動を行っており、地域の協議会に加入するだけで十分である。本部役員からの情報は、地域協議会役員へメール連絡、メール教育で良いのではないのでしょうか。

新指導員紹介

- ・都築 芽伊（西三河）：宜しく申し上げます。かけだしですので、できる所から参加、できる所から、頑張りたいです。
- ・藤井 千秋（名古屋）：自然や山が好きです。いろいろ教えてください。
- ・堀井 一正（名古屋）：昔から昆虫、特にチョウ目(とその幼虫)が好きで、ちょくちょく観察したり採集して育てたりしています。今は、石垣島のガが特に好きです。
- ・水野 香（名古屋）：植物を育てるのも撮るのも描くのも好きです。植物画を始めてからしくみや生態系に興味を持ち、本で調べたりフィールドに出て観察したりしています。季節の移り変わりを楽しみながら、これからも自然とふれあっていきたいと思います。
- ・水野 俊英（名古屋）：フィールドに出るのは好きですが、体力には自信がありません。まだまだ仕事が忙しい為、積極的に参加できるか不安ですが、おさそい下さい。宜しくお願いします。
- ・安井 弘（名古屋）：昨年定年退職し、現在は学童クラブにパートとして勤めています。今まで土日が勤めだったので、観察会にも参加できませんでした。昔で言う“博物学”が大好きで、自然科学系ならほとんど全てに関心があります（得意な訳ではありません）。1年間、身近な観察会に参加し、今回の指導員講習会に申し込み、成らせて頂きました。先輩方のご指導よろしく願いいたします。
- ・山本 祐輔（西三河）：豊田市の旭高原元気村で勤務しております。指導員として新米ですが、レベルアップできるように、活動していきたいと思います。

2019年度 第3回理事会 報告

日 時:平成2019年8月12日(月・祝)13:30～ 場所:名古屋市音楽プラザ
出席者:堀田、浅井、三田、石原、永田、新山、山田、滝田、榊原、星野、

◆活動報告(5月～8月)及び今後の事業予定(8月～11月)

◆議案 〈主な確認事項〉

あいちの自然観察会 研修会(各支部)担当	各支部からの日時・テーマ・実施場所を再確認した。 (通常総会資料「第4号議案 2019年事業」に掲載)
自然観察指導員講習 会 日本自然保護協 会との共催 愛知県・名古屋市後 援 P2参照	日時:8月31日(土)9:00～9月1日(日)16:30 場所:美浜少年自然の家 定員:60名 スタッフ:11名 名古屋支部:4名 知多支部:4名 尾張支部・西三河支部・ 東三河支部各1名 スタッフに女性2名入れる スタッフ11名の旅費・宿泊費は、協議会負担
生物(植物)分類・生 態研修会※	テーマ:火と植物との不思議な関係 講師:津田 智 氏 (岐阜大学准教授) 日時:11月30日(土)14:00～ 場 所:庄内緑地グリーンプラザ2階講習室
協議会交流の日 (担当:名古屋支部)	日時:11月4日(月・祝) 場所:名古屋市西区庄内緑地 内容:午前 自然観察(ネイチュア・フィーリング) 昼食休憩 汁ものを用意する 午後 標本作成について、観察の七つ道具、 お勧めする手ごろな図鑑

※なごや生物多様性保全活動協議会の会員活動支援の助成を受けて実施予定

その他

- ・第4回理事会 11月23日(土・祝)13:30～ 場所:愛知県教育会館

【行事案内】

区分	日 時	内 容	実施場所	集合場所	担 当
協議会 総会・講演 会	3/20(金・祝) 13:30~16:30	総会・講演会 内容・第4回理 事会で検討	中小企業 振興会館	4 F・第3 会議室	協議会 事務局

【編集部から】

編集スタッフ募集中！編集スタッフが不足しています。マイクロソフトのワードが出来ればOKです。詳細は編集部までお問い合わせください。

<編集後記>

・指導員講習会を「美浜少年自然の家」で開催しました。県協議会からは、スタッフ11名が参加し、県内外から57名の方が最終的に受講しました。県内では42名、そのうち22名の方が、協議会に入会しました。スタッフの皆さんには、現地講師はもとより、下見、湯茶の接待など、講習会がうまく回るよう、多方面からのサポートをしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。尾張支部の内海会員が指導員講習会の報告の中で初代会長の故大竹勝さんの言葉を紹介しています。そこに述べられているように、この機関誌を通じて会員相互の連携が強められることを願っています。

・新指導員研修会には、新指導員6名を含め11名の方が参加しました。講師の名古屋支部の山田千宏さんからは、「観察の切り口、自然の不思議」を教えていただきました。新指導員はもとより、参加者の皆さんにも参考になったのではないのでしょうか。協議会の研修会を続けると良いとの意見をいただきました。（石原）

指導員講習会 風景（写真提供 山田千宏さん）



編集スタッフ	石原則義 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail : norinameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>
郵便振替口座 : 00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）機関誌「協議会ニュース」165号 2019年12月発行